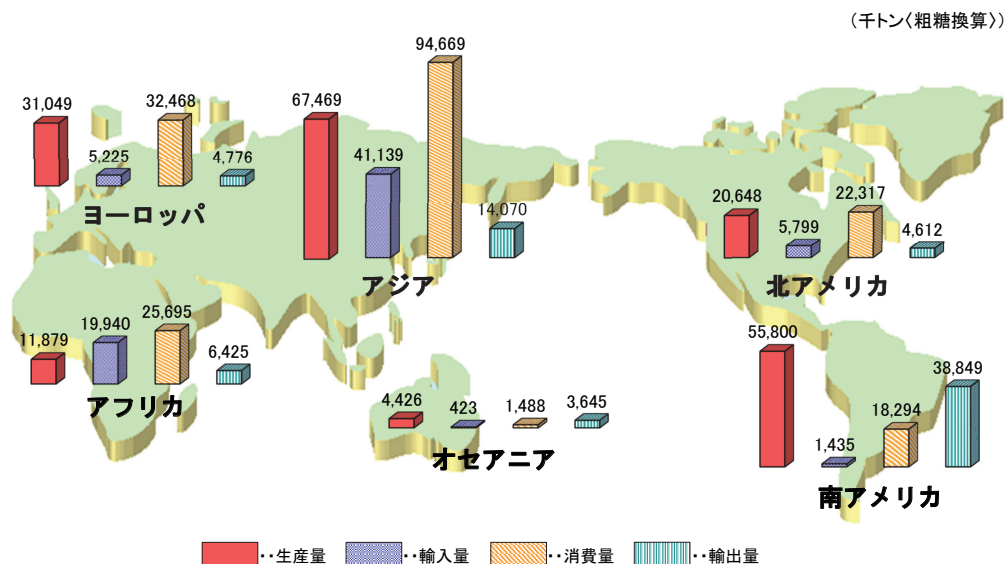


砂糖の国際需給

調査情報部 峯岸 啓之

1 世界の砂糖需給（2023年12月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別砂糖需給（2023/24年度予測値）



資料：英国の民間調査会社GlobalData UK Ltd. 「Quarterly Statistical Update, December 2023」
 注1：年度は、国際砂糖年度（10月～翌9月）。
 注2：ヨーロッパには、ロシアを含む。

表1 世界の砂糖需給の推移

（単位：千トン（粗糖換算）、%）

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1993/94	43,011	111,671	29,296	111,545	30,792	41,641	37.3
1998/99	55,071	134,755	36,987	124,048	39,954	62,812	50.6
2003/04	67,776	143,453	44,661	145,044	47,150	63,697	43.9
2008/09	67,085	150,476	48,241	160,676	49,830	55,297	34.4
2013/14	63,710	184,058	58,323	175,873	61,044	69,173	39.3
2018/19	80,661	186,618	61,420	182,759	61,495	84,445	46.2
2019/20	84,445	181,594	69,256	182,067	71,643	81,585	44.8
2020/21	81,585	181,623	66,782	184,148	68,189	77,652	42.2
2021/22	77,652	186,251	69,322	186,138	71,729	75,359	40.5
2022/23	75,359	191,441	69,683	189,799	71,049	75,634	39.8
2023/24 (2023年12月予測)	75,634	191,271	73,961	194,931	72,376	73,559	37.7

資料：GlobalData UK Ltd. 「Quarterly Statistical Update, December 2023」
 注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。
 注2：2021/22年度および2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度の数値は予測値。
 注3：期末在庫量は（期首在庫量+生産量+輸入量-消費量-輸出量）。
 注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

「世界の砂糖需給」および「主要国の砂糖需給」は四半期ごとの更新となっていますので、次回は2024年4月号の掲載となります。直近の内容は2024年1月号をご参照ください。

「世界の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_003064.html

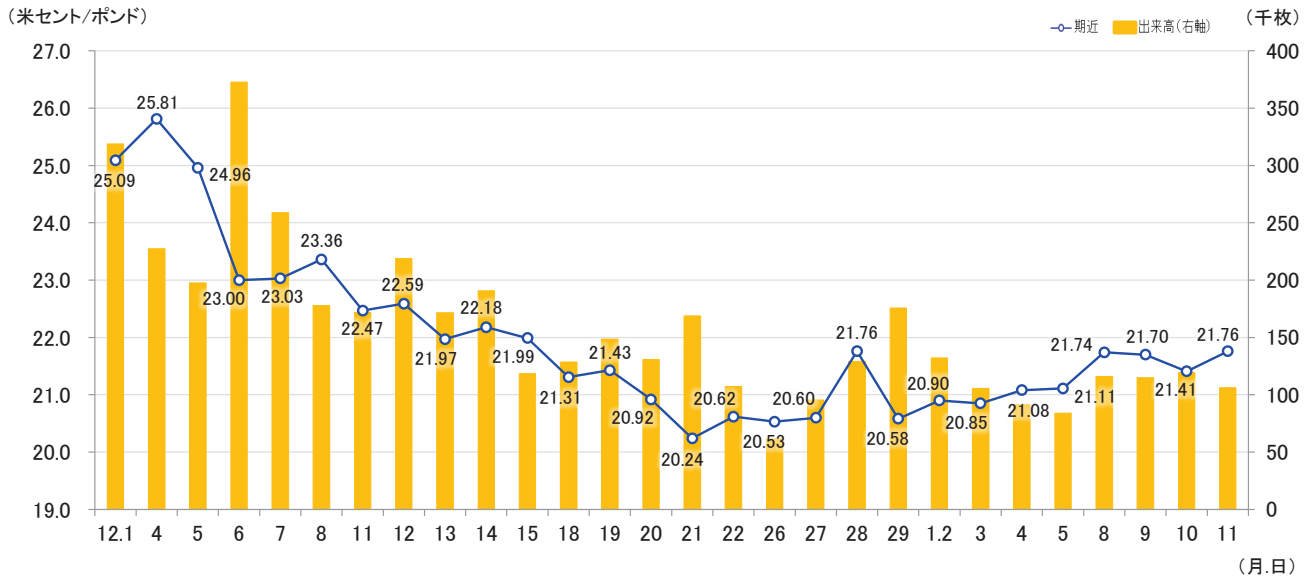
「主要国の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_003065.html

2 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖先物相場の動き（12/1～1/11）

～ブラジルの増産見込みから供給不足の懸念が和らぎ、9カ月半ぶりに20セント台まで急落～

図2 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所
注：期近3月限の値。

2023年12月のニューヨーク粗糖先物相場（3月限）の推移を見ると、1日は、ブラジルの増産見込みから、1ポンド当たり25.09セント（注1）と26セントを割り込んだ。4日は、ショートポジションをカバーするための買い戻し（注2）から一時上昇し、同25.81セントまで回復したものの、5日以降は、原油安（注3）や供給不足の懸念が緩んだことから売りが先行し、6日は、同23.00セントと急落した。7日以降は、ドル安（注4）やインドの減産見通しなどからわずかに上昇したものの、ブラジルの増産が相場に与えるインパクトは大きく、11日は、同22.47セントと5カ月半ぶりの安値をつけた。12日以降は、ショートカバーやリアル高により一時上昇することはあったものの、ブラジルサトウキビ産業協会（UNICA）によるブラジルの増産見込みを受け右肩下がりで推移し、21日は、同20.24セン

トと9カ月半ぶりの安値まで急落した。22日以降は、小幅高で推移し、28日は、ショートカバーにより、同21.76セントと一時上昇したものの、29日は、ロングポジション（注5）の清算が行われたことで、同20.58セントと下落した。

24年1月2日以降は、インドの全国協同組合砂糖工場連盟（NFCSF）による同国の砂糖減産の発表や原油高により緩やかに上昇し、8日は、同21.74セントと値を上げた。9日以降は、ドル高や原油安により値を下げたが、11日はリアル高により、同21.76セントと上昇した。

（注1）1ポンドは約453.6グラム、1米セントは1米ドルの100分の1。

（注2）将来の値下がり期待して売りの持ち高を取っていた金融資産（ショートポジション）を、決済のために買い戻すこと。ショートカバーとも。

(注3) 一般に、原油価格が下落すると、石油の代替燃料であるバイオエタノールの需要は減少し、その原料作物（サトウキビ、てん菜など）のバイオエタノール生産への仕向けが減る。その結果、それら原料作物から生産される食品（サトウキビの場合は砂糖）の生産・供給が増えると想定され、当該食品の価格を押し下げる方向に作用する。

(注4) 粗糖は米ドル建てで取引されるため、米ドルに対してレアルが上昇すると、相対的にブラジル産粗糖の価格競争力が弱まる。世界最大の砂糖輸出国ブラジルの輸出意欲が低下すると、需給のひっ迫につながることから、価格を押し上げる方向に作用する。

(注5) 将来の値上がりを期待して買いの持ち高を取っている状態。

3 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向（2024年1月時点予測）

ブラジル

2023/24年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：853万ha（前年度比0.6%増）
生産量：7億1799万トン（同18.3%増）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：4960万トン（同24.9%増）
輸出量：3686万トン（同27.3%増）

2023/24年度の砂糖輸出量は、世界的な天候不順への懸念や国際需要の高まりから大幅に増加する見込み

GlobalData UK LTD.（農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社）による2024年1月時点の予測によると（以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述）、2023/24年度（4月～翌3月）のサトウキビ収穫面積は、853万ヘクタール（前年度比0.6%増）とわずかに増加すると見込まれる（表）。サトウキビ生産量は、主産地の中南部地域が好天に恵まれたことや単収の増加などから、7億

1799万トン（同18.3%増）と大幅に増加すると見込まれる。

砂糖生産量は、サトウキビの増産や収穫期の好天を受け、収穫作業や工場での操業が加速していることなどを背景に、4960万トン（同24.9%増）と大幅に増加し、過去最高水準に達すると見込まれる。輸出量は、引き続きエルニーニョ現象による世界的な天候不順への懸念や国際市場での需要の高まりが期待されることから、3686万トン（同27.3%増）と大幅に増加すると見込まれる。

表 ブラジルの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

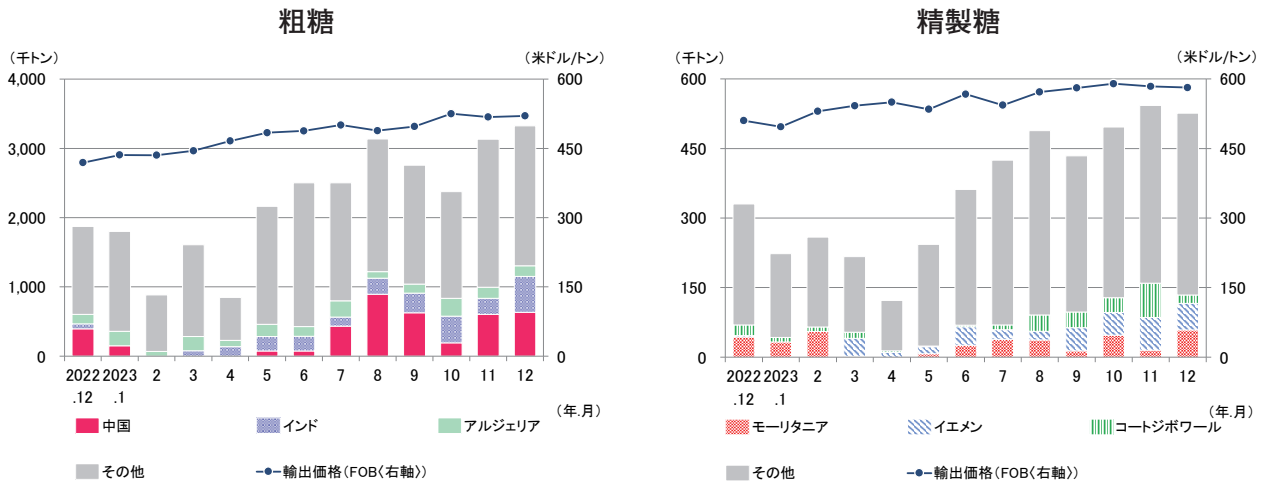
年度	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 (12月予測)	2023/24 (1月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	8,651	8,679	8,485	8,300	8,533	0.6%	
サトウキビ生産量	657,432	576,707	606,676	700,496	717,989	18.3%	
砂糖	生産量	44,642	37,620	39,720	48,480	49,600	24.9%
	輸入量	6	4	2	3	3	48.8%
	消費量	10,916	10,712	10,551	10,715	10,710	1.5%
	輸出量	34,042	27,093	28,964	35,577	36,863	27.3%
	期末在庫量	3,762	3,581	3,787	5,952	5,817	53.6%
	期末在庫率	8.4	9.5	9.6	12.9	12.2	2.6ポイント増

資料：GlobalData UK Ltd. 「Monthly Sugar Information in Major Countries, January 2024」

注1：2021/22年度および2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) ブラジルの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：輸出量は、直近13カ月（累計）の上位3カ国・地域を表示。

インド

2023/24年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：526万ha（前年度比4.1%減）

生産量：4億3717万トン（同5.0%減）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：3390万トン（同3.3%減）

輸出量：371万トン（同57.1%減）

2023/24年度の砂糖輸出量は、減産と政府の輸出制限により大幅に減少する見込み

2023/24年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は、526万ヘクタール（前年度比4.1%減）とやや減少すると見込まれる（表）。サトウキビ生産量は、主産地であるウツタル・プラデーシュ州で

前年を上回っているものの、同じく主産地であるマハラシュトラ州では降雨の遅れがサトウキビの成長に影響を及ぼしたことなどから、4億3717万トン（同5.0%減）とやや減少すると見込まれる。

砂糖生産量は、同国政府がサトウキビ由来のエタノール生産を制限したことを受け、前回予測より

200万トン上方修正されたものの、マハラシュトラ州の減産などにより、3390万トン（同3.3%減）とやや減少すると見込まれる。輸出量は、砂糖の減

産見込みに加え同国政府による輸出制限により、371万トン（同57.1%減）と大幅な減少が見込まれる。

表 インドの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 (12月予測)	2023/24 (1月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	4,804	5,197	5,483	5,463	5,257	▲ 4.1%
サトウキビ生産量	414,392	480,180	460,037	443,221	437,168	▲ 5.0%
砂糖	生産量	33,642	38,559	35,065	31,949	▲ 3.3%
	輸入量	1,037	428	1,687	3,070	91.7%
	消費量	28,679	29,516	30,456	30,888	3.2%
	輸出量	8,538	12,468	8,646	3,478	▲ 57.1%
	期末在庫量	7,971	4,973	2,623	3,275	76.2%
	期末在庫率	21.4	11.8	6.7	9.5	13.2

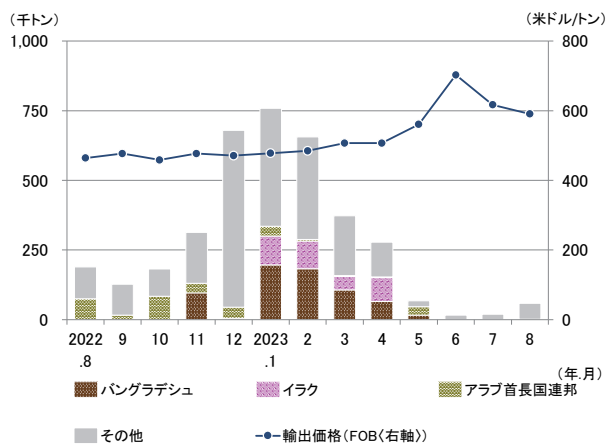
資料：GlobalData UK Ltd. 「Monthly Sugar Information in Major Countries, January 2024」

注1：2021/22年度および2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度の数値は予測値。

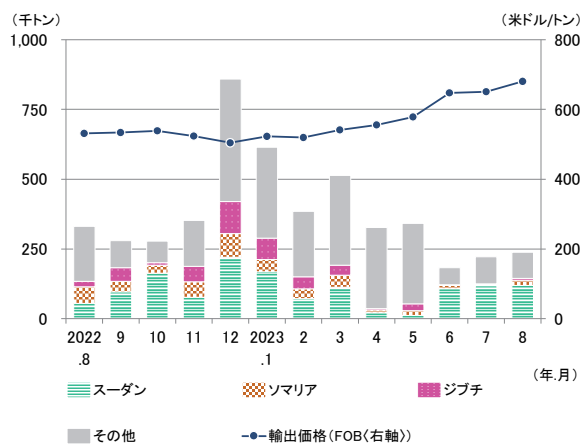
注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出価格の推移

粗糖



精製糖



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：輸出量は、直近13カ月（累計）の上位3カ国・地域を表示。

注3：2023年9月分よりデータの公表なし。

2023/24年度（10月～翌9月）の見通し

【てん菜】

収穫面積：145万ha（前年度比3.6%増）
生産量：1億993万トン（同11.3%増）

【砂糖（てん菜糖）】

生産量：1645万トン（同5.2%増）
輸出量：218万トン（同2.0倍）

2023/24年度のてん菜生産量は降雨による影響が懸念されるものの、かなり大きく増加する見込み

2023/24年度（10月～翌9月）のてん菜の収穫面積は、EU最大のてん菜主産地であるフランスでの減少が見込まれる一方、トウモロコシや小麦と比較して、てん菜の収益性が高いことなどから、ポーランドやスペインで作付面積の増加が見込まれることで、145万ヘクタール（前年度比3.6%増）とやや増加すると見込まれる（表）。てん菜生産量は、北西ヨーロッパ地域の大部分で良好な降雨と日照に恵まれ、作柄の見通しが改善されたことから、1億993万トン（同11.3%増）とかなり大きく増加すると見込まれる。しかし12月には、てん菜生産の盛んなビートベルト^{（注1）}全域で平年より多い降雨が観測され、洪水が発生している地域もあることか

ら、てん菜収穫量の減少や収穫の遅れが懸念されている。

砂糖生産量は、^{いおう}萎黄病^{（注2）}の影響が限定的との見通しやバイオエタノールに利用するてん菜の減少などから、1645万トン（同5.2%増）とやや増加すると見込まれる。輸入量は、砂糖の増産が期待されることやウクライナからの輸入を制限する国があることなどから、245万トン（同25.3%減）と大幅な減少が見込まれる。また、輸出量は、砂糖の増産などを受け218万トン（同2.0倍）と18/19年度の水準まで回復が見込まれる。

（注1）フランス北西部や英国南部からポーランドやリトアニアにかけて広がるてん菜栽培に適した地域。「シュガーベルト」とも称されている。

（注2）アブラムシによって媒介される植物ウイルス病。

表 EUの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

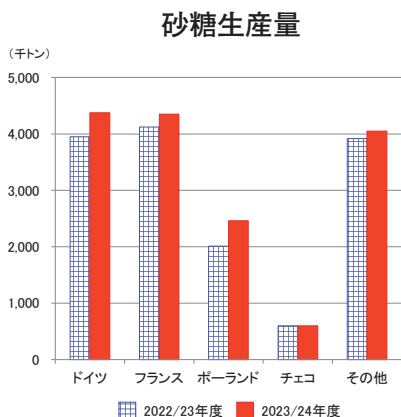
年度	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 (12月予測)	2023/24 (1月予測)	前年度比 (増減率)	
てん菜収穫面積	1,474	1,454	1,396	1,442	1,446	3.6%	
てん菜生産量	98,508	111,404	98,764	102,561	109,933	11.3%	
砂糖	生産量	14,711	17,153	15,634	16,406	16,448	5.2%
	輸入量	1,888	2,153	3,284	2,626	2,454	▲ 25.3%
	消費量	16,358	17,673	17,245	17,421	17,235	▲ 0.1%
	輸出量	1,262	1,312	1,077	2,158	2,178	2.0倍
	期末在庫量	1,327	1,647	2,244	1,696	1,732	▲ 22.8%
期末在庫率	7.5	8.7	12.2	8.7	8.9	3.3ポイント減	

資料：LMC International [Monthly Sugar Information in Major Countries, January 2024]

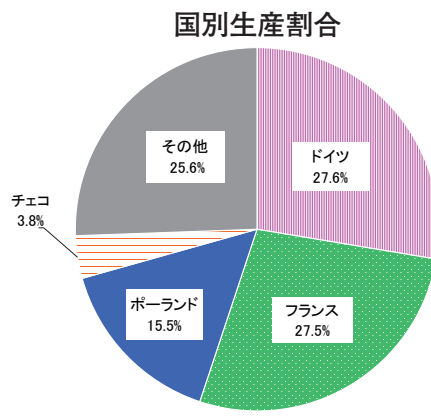
注1：2021/22年度および2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) EUの砂糖生産量および国別の生産割合の見通し (2023/24年度) (2023年12月時点)



資料：欧州委員会
注1：精製糖換算
注2：2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度は予測値。



資料：欧州委員会

中国およびEUの需給動向は2024年1月号より隔月ごとの更新となりました。中国の需給動向は来月号の掲載となります。

4 日本の主要輸入先の動向 (2024年1月時点予測)

近年、日本の粗糖（甘しゃ糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しゃ糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先は、豪州およびタイであり、2022年の主要輸入先の割合を見ると、豪州が90.7%（前年比4.1ポイント増）、タイが9.3%（同4.1ポイント減）と、両国でほぼ全量を占めている（財務省「貿易統計」）。

豪州

2023/24年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：35万ha（前年度比7.6%増）
生産量：2976万トン（同8.7%減）

【砂糖（甘しゃ糖）】

生産量：415万トン（同3.5%減）
輸出量：314万トン（同6.9%増）

2023/24年度の砂糖輸出量は、需要の高まりからかなりの程度増加する見込み

2023/24年度（4月～翌3月）のサトウキビの収穫面積は、35万ヘクタール（前年度比7.6%増）とかなりの程度増加すると見込まれる（表）。サトウキビ生産量は、主産地であるクイーンズランド州北部で季節外れの降雨の影響により収穫が遅れたことで、2976万トン（同8.7%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。

砂糖生産量は、サトウキビが減産見込みとなる中で、エルニーニョ現象の影響とされる乾燥した天候により、CCS^(注)が高いことから、415万トン（同3.5%減）とやや減少にとどまると見込まれる。なお、現地では、12月に同州へ上陸したサイクロン「ジャスパー」による農業への被害が報じられている。同州の生産者団体であるCANEGROWERSによると、洪水に見舞われた地域は砂糖生産量の約2割を占めているが、23/24年度の収穫が終了したばかり

りであることから、被害の程度は不明とされている。
また、すでに栽培を開始している24/25年度のサトウキビについても、今回のサイクロンによる被害が懸念されるため、状況の確認を行っていると思われる。

輸出量は、韓国、インドネシアおよび日本など主要輸出先での砂糖消費需要が堅調であることに加え、50年ぶりに輸出が再開された英国向けや、世

界的な砂糖の供給懸念による豪州産砂糖の需要の高まりなどから、314万トン（同6.9%増）とかなりの程度増加すると見込まれる。

(注) 可製糖率：サトウキビのショ糖含有率、繊維含有率および搾汁液の純度から算出される回収可能な糖分の割合。

表 豪州の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 (12月予測)	2023/24 (1月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	354	343	328	353	353	7.6%
サトウキビ生産量	31,074	30,123	32,593	30,362	29,757	▲ 8.7%
砂糖	生産量	4,385	4,108	4,298	4,233	▲ 3.5%
	輸入量	10	9	8	14	50.1%
	消費量	1,010	1,010	1,013	1,017	0.4%
	輸出量	3,377	3,453	2,942	3,230	6.9%
	期末在庫量	790	444	795	803	795
期末在庫率	18.0	9.9	20.1	18.9	19.1	1.0ポイント減

資料：GlobalData UK Ltd. 「Monthly Sugar Information in Major Countries, January 2024」

注1：2021/22年度および2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

タイ

2023/24年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：152万ha（前年度比6.2%減）
生産量：7500万トン（同20.1%減）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：894万トン（同23.5%減）
輸出量：609万トン（同25.9%減）

2023/24年度の砂糖生産量と輸出量は、大幅に減少する見込み

2023/24年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、エルニーニョ現象などによる乾燥天候を考慮して、より乾燥に強いキャッサバに転換する農家が増加しており、152万ヘクタール（前年度比6.2%減）とかなりの程度減少すると見込まれる（表）。サトウキビ生産量は、収穫面積の減少に加え、エルニーニョ現象による天候不順がサトウキビの生

育に大きな影響を及ぼす可能性があるとして、7500万トン（同20.1%減）と大幅な減産が見込まれる。

サトウキビ生産量は前回予測から据え置かれたが、これまでの収穫分のCCSが低いことから、砂糖生産量は894万トン（同23.5%減）と大幅に減少すると見込まれる。輸出量も、砂糖の減産を背景に609万トン（同25.9%減）と大幅に減少すると見込まれる。

表 タイの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 (12月予測)	2023/24 (1月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	1,485	1,525	1,617	1,518	1,518	▲ 6.2%
サトウキビ生産量	66,659	91,145	93,888	75,000	75,000	▲ 20.1%
砂糖	生産量	8,046	10,638	11,693	9,154	▲ 23.5%
	輸入量	111	149	283	283	0.0%
	消費量	3,592	3,424	3,348	3,309	▲ 1.0%
	輸出量	3,981	8,085	8,229	6,233	▲ 25.9%
	期末在庫量	5,116	4,395	4,794	4,689	▲ 3.8%
	期末在庫率	67.6	38.2	41.4	49.1	49.0

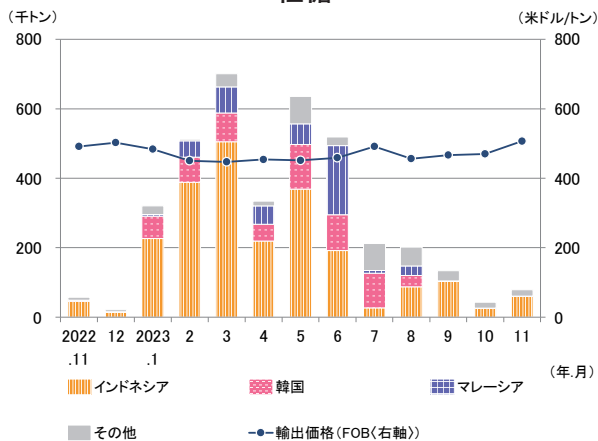
資料：GlobalData UK Ltd. 「Monthly Sugar Information in Major Countries, January 2024」

注1：2021/22年度および2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

（参考）タイの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出価格の推移

粗糖



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：輸出量は、直近13カ月（累計）の上位3カ国・地域を表示。

精製糖

